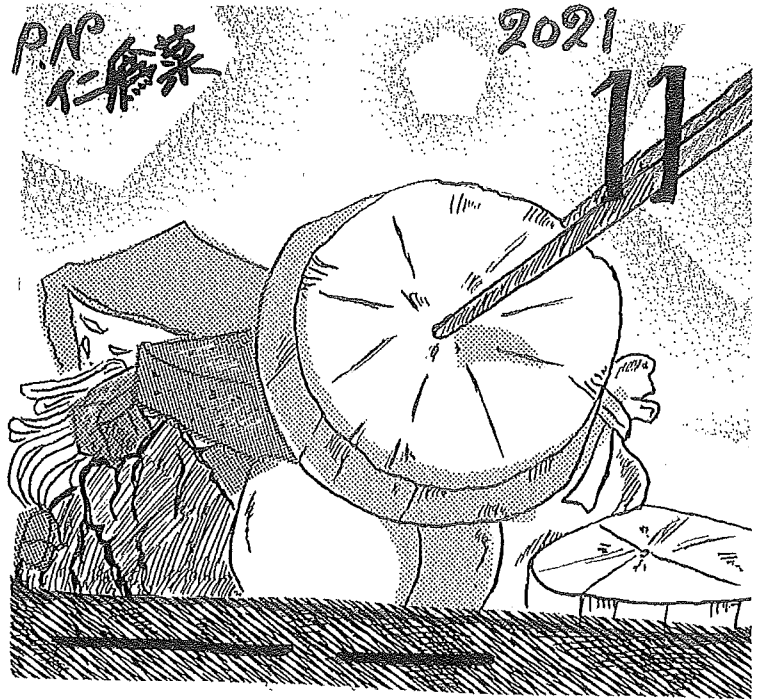
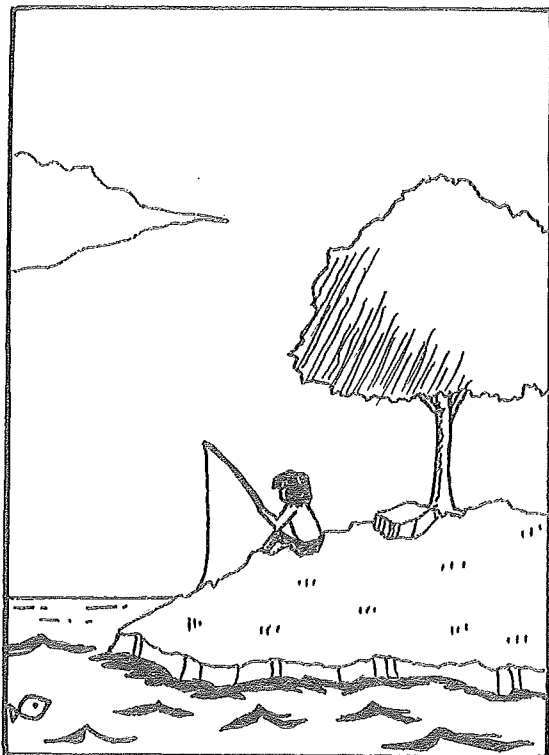


旅立ち

社会福祉法人しらとり会
利用者通信 (NO. 74)
令和3 (2021) 年11月1日発行

今月は、5名の方からの投稿です。



「何てったって ハルキスト!!」 (その4)

今でも僕は長編『1Q84』が平成のNO.1小説だと思っています。2013年4月に『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』を書き上げ、もうこの頃になるとあまり読んでないのですが2014年『女のいない男たち』を書き上げています。そして2017年2月に『騎士団長殺し』を発表しています。そして、これを受け、川上未映子さんとの対談である、『みみずくは黄昏に飛び立つ』を出版されています。僕は、いいかげんな読み方しか知らないハルキストいや、村上主義者ですが、こうして、おおざっぱな言い方ですがクロニクルなまとめ方を終えたいと思います。

(Y.Y.)



黒田美鈴



- ある社会福祉法人は無借金経営を自慢している。
- 自分の資金力に余程の自信があるのだろう。
- この法人に銀行が幾ら融資してくれるか見ものだ。
- 弁済能力がなく弁済の実績のない法人に誰も融資しない。
- つまり事業経営ではなく家計簿経営である。
- 収入の範囲内でする経営は事業展開できない。
- 主婦の家計簿程度で経営ができと思っている。
- 理事や評議員が地方の名士になるので間違いに気付かず、しかも大学出が多いので自分の間違いを認める力がない。
- 福祉事業者は人を扱うから一番偉い。
- いつまでも貧乏と援交。

(加藤忠男)

【投稿の募集】

読んでいただいた方からのご感想をお寄せください。また、利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。

次回の締切は、11月15日(月)です。

『旅立ち』編集委員：加藤、本川、A.-Z.、H.A.